

## 2022 年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

| 評価項目          | 評価結果 及び 対策  | 改善結果（進捗状況）  |
|---------------|---|---|
| I、環境・体制整備について | <p>○利用定員に対する療育室等のスペースについて、通常は十分適切であるが、新型コロナ等感染症の蔓延時期は、分散や隔離などの対策をとったことで、部屋数やスペースが不足した。面談室を一時的に療育室や休憩室とするなど、流動的に使用することで対応した。</p> <p>○利用児に対する職員の配置数は基準を満たしているが、利用児の個別的支援の程度について曜日により差が出やすく、日により職員の不足感がある。個別的支援にも適切に対応するため、クラス間で担任以外の職員の動きを柔軟にとるようにした。</p> | <p>○感染対策を行いつつ事業を継続できている。状況によるパーティションの配置調整や廊下スペースの有効活用を引き続き検討し実践する。</p> <p>○療育開始後は、それぞれのクラスの状況が見えにくく、柔軟な職員移動が叶わない日がある。毎朝、職員と利用児の数が確定した段階で、再調整を速やかに行い、児発管やリーダー職員によるクラスの状況把握をおおよそ1時間ごとに行うことで、子どもに合わせた環境を常に整えていく。</p> |
| II、業務改善       | <p>○業務時間内での研修開催が定例化し、研修に参加できる職員は微増したが、偏りは依然として見られる。参加が難しい状況について、要因を分析しつつ、伝達研修で補うよう対策をとった。</p>   | <p>○参加の偏りはまだ見られる。引き続きすべての職員が参加できる勤務調整を行いつつ、所内会議等での伝達研修に加え、録画した講話を視聴する時間を設けるなど代替方法を検討する。</p>   |

|                       |   |   |
|-----------------------|---|---|
| <p>Ⅲ、適切な支援の提供</p>     | <p>○児童発達支援計画における評価の記載内容について、事業所としての取り組み、実行した支援内容が十分に反映されていないものがあった。実践した取り組みについて、不足なく評価欄に反映できるよう、カンファレンス時に職員間で記載内容の確認を行った。</p> <p>○職員の欠勤等、配置が整いにくい日は個々の支援計画に沿った活動を保障することが難しくなりやすい。クラス内でさらにグループ化し個別課題に取り組む時間を設けた。</p> | <p>○実践した支援内容を保護者に正しく伝えることができるようになってきた。対応について、引き続き実践する。</p> <p>○職員配置にいくつかのバリエーションをもたせることで、集団活動と個別活動を組み合わせた療育の組み立てが柔軟にできるようになってきた。いかなる状況でも効果的に実践できるよう対応を継続する。</p>   |
| <p>Ⅳ、関係機関や保護者との連携</p> | <p>○地域の子どもたちとの交流は、実践する機会が得られなかった。併設することも園とは、新型コロナの感染が落ち着いている時期に交流を行った。</p> <p>○保護者の対応力向上に向けた活動や支援の機会が設定できていない。グループキラキラ（クラス職員によるグループ面談）を開始し、保護者どうしで話をする機会を設けた。</p>   | <p>○工夫を行うことで実践できた交流が多くあった。引き続き、こども園とともに、施設内での交流に向けた企画と準備を計画的に進めるとともに、日常的に交流が図れるよう、それぞれの環境と子どもへの配慮事項を共有する。</p> <p>○グループ面談は、参加した保護者から継続希望が多く聞かれたが、まだ参加に至らない家庭もある。グループ面談の参加率をさらに上げるため、保護者からの声を汲み取り、希望に添った内容や方法で実行する。次年度は、開催日時の調整を行うとともに、保護者が他の保護者の対応方法について知る機会を検討する。</p> |

|                     |  |  |
|---------------------|--|--|
|                     | <p>○保護者から聞かれた相談について、対応の助言が困り感の軽減となっているか確認できていない。保護者の相談と対応の経過を把握し、必要な助言と支援を継続的に行うため、相談内容等は、都度クラス職員で共有し、さらに細かく記録に残すようにした。</p> <p>○医療機関をはじめ関係機関との連携が十分に行えていない。看護師や作業療法士など直接対応する専門職より、療育内での特別支援（リハビリ）や看護内容等についての医療情報を保護者から積極的にいただくようにした。</p>                               | <p>○共有しながら対応を揃えることができるようになってきた。保護者との対話時、機会を逃さず進捗と意思を確認できるよう、相談や助言内容をクラス職員全体で都度共有する対策を続ける。</p> <p>○保護者に了解を得ながら、医療機関との連携やリハビリ同行に向け調整を行う。状況や時期により、医療連携に向けては、併設する訪問看護ステーション等と協働し、より効果的に実施する。</p> |
| <p>V、保護者への説明責任等</p> | <p>○新たに導入したICTシステムの機能を活用し、施設の状況を速やかに配信するよう努めた。併設するこども園とも提供する情報や対応を揃えるため、同時配信の仕組みを構築した。</p>   | <p>○感染症発生時や緊急時など、保護者に向けた情報提供やお迎え要請について施設内で対応や時間に差が生じないように引き続き対策を講じる。</p>   |
| <p>VI、非常時等の対応</p>   | <p>○月次の防災訓練について、併設するこども園、訪問看護ステーションとともに、年間計画に基づき、さまざまな状況を想定した実施ができた。一方で送迎時や面談時、行事時など、保護者が事業所内に滞在する場面での実施はできておらず、親子で身を守る行動をとる訓練は所内で実践できていない。消防署より、防災に向けた準備や工夫、またさまざまなシチュエーションでの避難訓練の方法について助言をいただいた。その上で、これまで実施済のこども園での早番遅番時の訓練の他、滞在する保護者にも参加いただける機会を設けていくことを検討している。</p> | <p>○次年度は、起震車を使った体験型の訓練を実施する。子どもに合わせた非常食の形態調整や緊急避難時の準備物の確認など、保護者とともに一歩踏み込んだ対策が行えるよう内容を検討する。また、消防署や施設設備管理者による消火栓の取り扱い指導を含めた火災発生時の初期対応の訓練も行う予定で準備を進めている。</p>                                    |

## 【 まとめ 】

今年度、2クラス体制での運営をスタートした。より一人ひとりの利用児の状況に対応するため、柔軟な編成とし、必要に応じてクラス間の移動を行いつつ、適宜体制の評価を重ねている。生活や遊びを少人数化したことで、それぞれの利用児の支援内容が丁寧に確実に実践できるようになった他、療育室について、利用定員に見合う広さを大きく超える空間を確保でき、これまで以上に個々の活動や機会を保障できるようになった。職員にとって、ゆったりとしたスペースで療育を実践できることは、個々やクラスのねらいに沿いながらも発想豊かに専門性を発揮する姿につながっている。

また、今年度はクラス担当職員によるグループ面談を始めた。保護者どうしの対面でのつながりが制限された時期は、懇談会のリモート開催や行事の分散開催を通して機会を絶やさぬよう努めたが、保護者からは交流や対話の機会を切望する声が多く聞かれた。グループ面談にとどまらず、保護者にとり、情報交換や思いの共有、悩みの相談などに加え、学びの機会となるような機会を今後も模索していきたい。

最後に、行政をはじめ関係機関からの助言や情報提供、連携を通じて、事業所運営が適切に効果的に継続できたことに感謝する。事業所としての発展は、子どもたちの姿、保護者の声に真摯に目を向け耳を傾け、地域や関係する機関とともに進むものであると改めて感じる。次年度も、頂いたご意見を力添えとし、子どもたちの発達支援とそれを支えるご家族、地域のご要望に応えられるよう職員一丸となって対応していく所存である。